

# 上三川 近代化の歩み

明治維新から戦前まで

## 近代的な地方制度の確立

現在、上三川町には市町合併の話があります  
が、江戸幕府が倒れ、明治の新しい時代が到来  
した上三川の地にも、今までの村々が再編成さ  
れ、新政府による地方支配の体制が徐々に整え  
られようとしていました。

明治維新後、しばらくは  
旧来より続く町村制度が引  
き継がれましたが、187  
1（明治4）年に戸籍法が  
布告され、戸籍を編成する  
ために戸籍区が設けられ、  
それぞれの戸籍区には名主  
や庄屋に替わり区長・戸長  
を置き、様々な仕事を行う  
こととなりました（大小区  
制）。この区割りはその後  
変更が繰り返されますが、  
長い間に培われた町村がも  
つ共同体としての機能を無視した区割りであつ  
たため、やがて1878（明治11）年に郡区町  
村編成法の成立とともに、江戸時代以来の町村  
が行政単位として復活しました。

そして1889（明治22）年に市制町村制が  
施行され、①小学校が設置管理される規模、②  
300戸〜500戸、③地形や住民感情に問題がないこ



明治26年から昭和34年まで活躍した上三川町  
役場は昭和49年に火災で焼失しました

などを基準として、町村の大合併が行われ、  
23村が3村へと統合されました。上三川村・上  
蒲生村・下蒲生村・五分一村・坂上村・三本木  
村・三村が上三川村に（1893年に町制に移  
行）、上郷村・西蓼沼村・東蓼沼村・東汗村・  
西汗村・上文挾村・西木代村・磯岡村が本郷村  
に、多功宿・大山村・梁村・川中子村・下神主  
村・上神主村・石田村・鞘堂新田村が多功村と  
なりました。しかし、この時の合併は、決して  
すんなりと進んだわけではなく、東蓼沼村と西

蓼沼村は名称を蓼沼村とす  
ることを主張し、東汗・西  
汗・上文挾・西木代・磯岡  
の各村は現在宇都宮市の西  
刑部・平塚村と合併するこ  
とを主張しました。また多  
功村という名前も、多くの  
反対によつてまもなく明治  
村に改称されました。  
この後、1897（明治  
30）年から1926（大正  
15）年までの間、河内郡役  
所がおかれ、各町村を統括  
するための業務を行いまし

たが、業務の簡素化のため廃止され、郡は単な  
る地名となる一方、町村の権限は拡大され、行  
政事務を行うために必要不可欠な機関となりま  
す。1950（昭和30）年のいわゆる昭和の大  
合併を迎えるまでの61年もの間、本郷村・上三  
川町・明治村が地方制度の基本機関として活躍  
しました。

# 忘報短歌

心こめ函形と虫くい繕ろえつつ

母の形見の段飾りびな

ほつほつと青み初めたる雪柳に

曇る弥生の寒戻りけり

さりげなき物やゆかしき夕翳る

床一輪の椿匂ふも

雨もなく風で吹き寄る畠中の

砂に埋もる青菜の強さ

干し物をたたむる廊の温もりに

身をも横たう一刻の幸

日の当たる轍の背後に夫のいる

茨の縫蛇の道の追憶

心なしに緑めげると想ひみる

公孫樹古木に手触れ耳寄す

菩提寺の庭吹き過ぎる虎落笛

写経の私の胸底に入る

音立ちて春待つ心の燃えるごと

野焼きの炎広がりがゆけり

小島キミ

稲葉敬子

沢谷郁子

井沢和江

高橋ツギ子

高田幸子

斎藤アツ子

武藤ひさ

菊地美代